



愛川ふれあいの村 今月の風景

2021年8月 自然のたより

猛暑日が北海道でも記録され、気候の涼しい北海道で開催されるオリンピックのマラソン競技が心配される。涼しい北海道であってほしい。ふれあいの村の8月は、甲子園の外野の芝生を賑すウスバキトンボを始め沢山のトンボ類が見られる。暑さに負けない緑の草木、緑に支えられる生き物たち、夕方になるとセミの幼虫がメタセコイアの幹に登り神秘的な羽化を行い、白いレースのようなカラスウリの開花も見られる。ふれあいの村で多様な自然の営みを満喫しよう。(吉田)



スミナガシとオオムラサキ



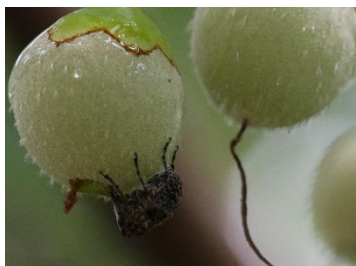
サシバ



ミンミンゼミの交尾



さえするホオジロ



エゴヒゲナガゾウムシ



ミヤマサナエ



ミヤマアカネ



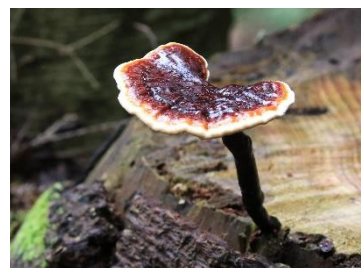
オトギリソウ



キツネノカミソリ



ウバユリ



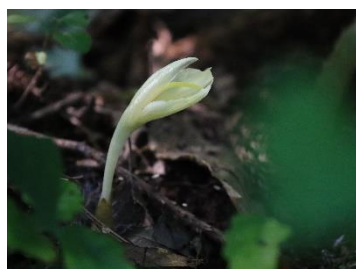
マゴジャクシ



ハッカ



スベリヒユ



ミヨウガ



ツクツクボウシタケ

トピックス ★アゲハモドキ★

みなさん、『チョウ』と『ガ』の違いってなんだか分かりますか？

キレイなのが『チョウ』で茶色っぽいのが『ガ』？昼間に活動するのが『チョウ』で夜に活動するのが『ガ』？翅を閉じて止まるのが『チョウ』で、開いて止まるのが『ガ』？などなど諸説ありますが、どれにも例外がたくさんあります。

結局、『チョウ』と『ガ』は同じ仲間であり、区別しようとする自体が不可能な話で、日本に限って言えば、アゲハチョウとセセリチョウの仲間を広義に『チョウ』と呼んで、それ以外はすべて『ガ』と呼んでいるようです。

『チョウ』と比べるとマイナスイメージの強い『ガ』ですが、私自身はここ最近、その種類の多さやチョウに負けず劣らずの色彩の豊かさに魅了され、『ガ』に興味を持ち始めました。村内を散策する際は、もっぱら外灯辺りをウロウロすることが多くなりました。外灯には多くの虫たちが集まるので、この時期は楽しみが多いですね。

ここ数カ月で色々な『ガ』に出会うことが出来ましたが、表題のとおり『アゲハモドキ』がロッジの壁にとまっているのを見つけたときは、思わず興奮して小躍りしてしまいました。どう見てもアゲハチョウ！というその色味と姿かたちを図鑑で見て、いつか本物に会ってみたいという願いは、案外早く叶いました。

このアゲハモドキ、どうしてモドキを演じなければならないか？そこにはちゃんとした理由があって、アゲハモドキは有毒のジャコウアゲハに似せて自らの身を守っている（擬態）ということのようです。

擬態にも色々ありますが、葉っぱに似せたり、目玉模様をつけたり、毒のあるチョウに似せたり、生き残りをかけた生態には感動すら覚えます。

ちなみに、このアゲハモドキの幼虫も、なかなか面白い形をしているようなので、次はぜひ幼虫に会ってみたいと思います。（袖山）



生き物 ★“アオ”サギ？★

川辺に存在感のある立ち姿の鳥がいました。『アオサギ』です。いわれてみれば青みがあるようにも見えますが、明らかに灰色の体。なのになぜ「青」なのでしょう。調べてみると、そもそも古代日本人のいう「青」とは、ブルーの色を指すだけでなく、青葉や青山の言葉のようにグリーン全般も指すし、同様に白黒ついていないグレー色もまた総じて「青」と呼んでいたようです。現代の色図鑑で見ると、結構な範囲が「青」のくくりになっていることがわかります。昔の人が全部同じ色に見えていたのではなく、「区別する必要が無かった」のが有力な説らしいのですが、何ともおおらかな認識ですね。現代でも信号機も明らかに緑なのに青信号といいますが、どうやらその名残だそうですね。

あ！アオサギが青魚を啜えて青雲かかる青空に舞い、青山に帰りました。（林田）



旬★Japanese Pepper(粉山椒)★

夏になると食べたくなる『ウナギ』。幕末の蘭学者、平賀源内が提案した「土用の丑の日はウナギ」は日本の食文化になりました。今回はウナギの蒲焼きではなく、その名脇役である『山椒』です。

山椒は日本の雑木林に普通に生えている、ミカン科の落葉低木です。村内にも道路わきや林の中に自生しています。山椒は消化を助ける効果があるので、栄養豊富な脂ののったウナギの蒲焼きと相性はピッタリです。山椒のピリッとした辛さや爽やかな香りはウナギの美味しさをより引き立ててくれます。

粉山椒は完熟した果実（写真）の外皮を乾燥させ粉末にしたものです。

山椒は雄株と雌株があり実がなるのは雌株です。かじると口の中に辛さが広がります。（高梨）



来月の見どころアキアカネ、何思う
青い空を背景にウスバキトンボが、群
れて飛び交っている。草刈りの終わった
芝生の傍から飛び出した小さなウンカ
を盛んに捕食している。草刈りの移動と
共にトンボたちも移動していく面白い
光景だ。日陰に咲くアザミの花にウラ
ナミシジミとダイミョウセセリが仲良く
吸蜜をしていた。その傍に花の終わった
アザミがありアキアカネが静かに止ま
って羽を休ませていた。透き通った羽の
模様が完全に左右対称になっていて何
とも言えない美しさである。
アキアカネは、日本の固有種で五十
にも満たない大きさ、重さも〇・五gほ
どだという軽量である。秋に産卵され冬
の間を卵で過ごし、水ぬるむ春の水田や
湿地で孵化しヤゴとなりミジンコなど
を食べ成長し羽化する。早朝に羽の濡れ
たような柔らかな成虫を見かけるが、や
がて稲につく小昆虫などを食べ、体力を
つける。暑い夏を涼しい山地へ向かっ
て飛行しそこで過ごす。低地が涼しくな
ってくると山から一斉に移動してくる。
真っ赤に染まった雄と連結したままで
産卵する。田んぼなら良いが、水たまり
に産卵しているのも見かける。アキアカ
ネは最近減少して
いるらしい。いろ
んな苦労と謎の多
いアキアカネは何
を思っているのだ
ろうと、その活動
をそっと見守りた
い。（吉田）

